

2026 年度 第 53 回総会・第 52 回研究大会

2026 年 7 月 4 日(土)～5 日(日)

國學院大學渋谷キャンパス(東京都渋谷区東 4-10-28)

学術メディアセンター1 階 常磐松ホール・多目的ホール

及びオンライン

主催:全日本博物館学会 協力:國學院大學

7 月 4 日(土)

11:00～12:00 2025 年度第 6 回定例委員会・2026 年度第 1 回定例委員会(※役員のみ)

12:00～ 開場

12:30～13:30 **第 53 回総会**(※対面開催)

14:00～17:40 **第 52 回研究大会・口頭発表**(発表 15 分・質疑応答 5 分)

No.1 木村 文(帯広畜産大学)

14:00～ 博物館による政治的関与—リトアニア共和国における文化大臣任命反対デモ(2025 年)の事例

No.2 高澤 廣行(筑波大学)

14:20～ ベルリン東アジア美術コレクションにおける蒐集・展示体系の創出—グローセからキュンメルへの継承と制度化

No.3 横田 由真(京都大学大学院)

14:40～ 博物館における歴史叙述の主体性と国民統合をめぐる考察

(15:00～15:10 休憩)

No.4 鎌苅 宏司(大阪商業大学)

15:10～ 「稼ぐ・高品質な美術館」に向けて—経済学から見た処方箋

No.5 中谷 大輔(長崎市恐竜博物館)

15:30～ 日本の博物館における姉妹館等の国際的な提携の動向

No.6 菊地 真(神戸大学海事博物館)

15:50～ 「戦争絵画」の背景を伝える—異なる二者の戦争画の検討・展示を通じて

No.7 武井 二葉

16:10～ 博物館学における調査手法の検討—網羅的な観察調査をふまえた、質的調査による実態把握

(16:30～16:40 休憩)

No.8 周 思敏(皇居三の丸尚蔵館)

16:40～ 「壁」は「取り除く」ものなのか?—ミュージアムにおける「心のバリアフリー」を考える

No.9 町田 小織(東洋英和女学院大学)

17:00～ 「周縁」からの問い直し—ICOM の包摂性概念は何を見えなくするか?

No.10 久保内 加菜(鎌倉女子大学)
17:20～ 公立美術館における障害者による表現活動の動向

18:10～20:10 情報交換会(※対面開催)(若木タワー18 階 有栖川宮記念ホール)

7月5日(日)

9:00～12:00 第52回研究大会・口頭発表(発表15分・質疑応答5分)

No.11 瀧端 真理子(追手門学院大学)
9:00～ V&Aにおけるライセンス供与による提携館の誕生

No.12 井上 瞳(愛知学院大学)
9:20～ ボストン美術館ビゲロー・コレクションの売却と「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」の制定

No.13 中林 寿文(開志専門職大学)
9:40～ ゲーム関連寄託コレクションの大学における活用整備 — 活用に向けたデータベース選定と段階的活用設計

(10:00～10:10 休憩)

No.14 高田 浩二(海と博物館研究所)、白鳥 法子、田中 貞徳(海辺の会)
10:10～ 島の自然・文化・歴史を資源にした「周防大島まると海の学び」の試み

No.15 海上 尚美(広島大学大学院)
10:30～ 歴博の「博学連携研究員制度」は地域博物館のモデルになれるか?—教師の専門的成長の視点から

No.16 村野 正景(静岡大学)
10:50～ 「学校博物館」の経営手法の分類と展望—日本・メキシコの事例分析から

(11:10～11:20 休憩)

No.17 野村 遼平(明治大学大学院)
11:20～ 近年の博物館施策の動向からみる博学連携の構造の変容とその展望

No.18 阿部 麟太郎(北海道大学文学院)
11:40～ 「博物館と地域」の現在地—『対話と連携の博物館』から25年間の文献調査を通じて

12:00～13:00 昼休憩

13:00～14:30 第52回研究大会・ポスター発表(※対面開催)

No.1 並木 美砂子(帝京科学大学)
気候危機をテーマにした展示と活動の現状—保全心理学の援用試論

No.2 佐藤 優香(東京大学)、武井 二葉(明石市立文化博物館)
博物館人材育成のための研修デザイン2—ボランティア初年度におけるワークショップデザイン研修

No.3 一ノ瀬 龍星(東京大学大学院)
1970年代後半の日本における展覧会図録の美術書化—書籍内部の構成要素の分析

No.4 井上 裕太(弘前学院大学)
学芸員養成課程におけるESDの展開と課題—弘前リボン・アートボール・プロジェクトの実践を通じて

No.5	宇仁 義和(東京農業大学) 民俗資料の検索名称とその周辺課題
No.6	森 沙耶(北海道大学教育学院) 科学館における展示物の運用方略と課題—混合研究法に基づく探究的質的調査の結果を踏まえた質問紙調査への展開
No.7	朱 麗梅(北海道大学文学院) 政策変遷からみる文化観光の形成と博物館の関係の変容
No.8	神辺 知加(東京国立博物館) 戦後初の国立博物館が文化財保存委員会付属機関になるまで
No.9	前山 明香、田中 望、中村 拓夢(東京農工大学)、上田 裕尋、齊藤 有里加(東京農工大学科学博物館) 「学生だからできること」は大学博物館でどう育つのか—学生支援団体 musset にみる資料活用・継承・新たな価値の創造
No.10	渡邊 里美 ミュージアムにおけるカームダウンスペースの設置について—当事者による事例をもとに
No.11	佐藤 愛(石見銀山資料館) 地方小規模博物館におけるバーチャル展示を活用したデジタルアーカイブの発展的運用
No.12	田口 公則、加藤 ゆき(神奈川県立生命の星・地球博物館) 3D 触察レプリカによる「3D 触知サイン」の提案—ダチョウとエミューの足指展示を例に

※前半発表 45 分: 奇数番号／後半発表 45 分: 偶数番号

14:30～18:10 第 52 回研究大会・口頭発表(発表 15 分・質疑応答 5 分)

No.19	金尾 滋史(滋賀県立琵琶湖博物館)
14:30～	博物館のレファレンス機能がもたらす付加価値とその有効性
No.20	芦谷 美奈子、金尾 滋史(滋賀県立琵琶湖博物館)
14:50～	琵琶湖博物館における「展示交流」の成果と意義を探る試み
No.21	島 絵里子(北海道大学文学院)
15:10～	コロナ禍における博物館の体験・対話時空間の長期的な休止傾向及び現在に続く影響
No.22	伊豆原 月絵(日本大学)、中村 隆(科学技術館)、富田 隆太(日本大学)、 高桑 健一、長島 明日香(DAIKEN 株式会社)、岡庭 拓也(日本大学)
15:30～	産・学・館連携による音環境啓発のための科学館における教育プログラムの構築と実践

(15:50～16:00 休憩)

No.23	田中 裕基(多摩六都科学館)
16:00～	映画ロケ地としての活性化と SNS 上の投稿から見る利用者が捉えた博物館の姿
No.24	江口 佳穂(北海道大学文学院)
16:20～	3 学会誌の分析による博物館の情報通信技術導入事例で描かれてきた利用者像の検討
No.25	嶋津 尚志(國學院大學大学院)
16:40～	犯罪としての「展示」—明治初期における“Exposition”翻訳の様相

(17:00～17:10 休憩)

No.26	鈴木 一彦(千葉大学)
17:10～	博物館における「物の意味」の再検討—museality 概念の再解釈を通じて
No.27	戸田 孝(滋賀県立琵琶湖博物館)
17:30～	「理工系博物館」という用語の歴史的背景
No.28	大瀧 拓実(明治大学大学院)
17:50～	日本の野外博物館概念形成過程における“現地保存型”に対する批判的検討

* 交通アクセス

【渋谷駅からのアクセス】

渋谷駅(JR 各線・地下鉄各線・東急各線・京王井の頭線)から徒歩約 13 分

渋谷駅(JR 各線)新南改札から徒歩約 13 分

都営バス(渋谷駅東口バスターミナル 54 番のりば 学 03 日赤医療センター前行)「国学院大学前」下車
(運賃 180 円・IC178 円)【渋谷駅から 3 番目の停留所、所要時間約 10 分】

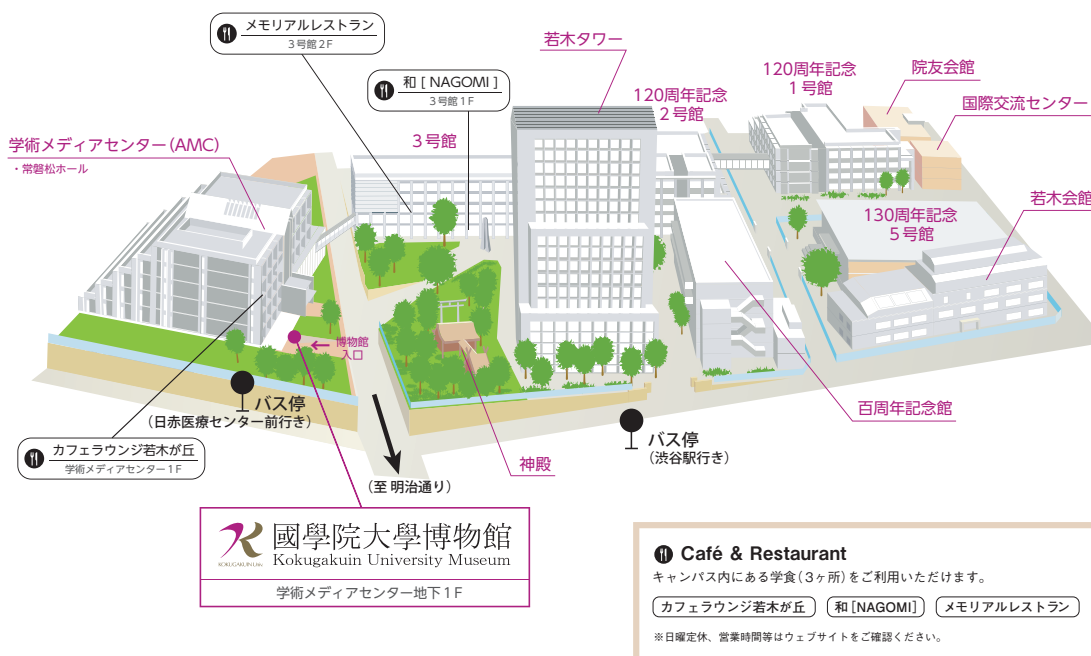
【表参道駅からのアクセス】

表参道駅(地下鉄半蔵門線・銀座線・千代田線)B1 出口から徒歩約 15 分

【恵比寿駅からのアクセス】

恵比寿駅(JR 山手線・埼京線・湘南新宿ライン、地下鉄日比谷線)から徒歩約 15 分

都営バス(恵比寿駅西口ロータリー1 番のりば 学 06 日赤医療センター前行)「東四丁目」下車
(運賃 180 円・IC178 円)【恵比寿駅から 3 番目の停留所、所要時間約 10 分】



* その他

- ・会場にはネットワーク環境がありませんので、ご注意ください。
- ・会場では、ご持参のお弁当をいただけるスペースを用意していますので、ご利用ください。
- ・学食(※会期中は土曜日のみ営業)のほか、近隣にコンビニエンスストア等もございますので、ご利用ください。学食の詳細については、右リンク(<https://www.kokugakuin.ac.jp/about/information/p13>)をご覧ください。
- ・国学院大学博物館は、会期中展示替えにて休館となります。ご了承ください。